

# Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 164 2018. 3. 1

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC館内  
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 080-9730-1311 FAX:058-293-3384  
E-mail: jsei@gifu-uac.jp http://jsei.jp/

## ＝ 日本教育情報学会 第34回年会 ＝

開催日：8月25日（土）・26日（日）  
会場：松蔭大学 厚木森の里キャンパス  
テーマ：学校教育と地域力を考える

第34回年会の会場は、松蔭大学の厚木森の里キャンパスがメインとなりますが、ステーションキャンパス（本厚木駅前）から大学専用シャトルバスを利用して20分程度となります。厚木森の里キャンパスは、丹沢大山国定公園の美しい山並みを背景に、緑に恵まれた学園研究都市「厚木・森の里」の中央に位置し、近場には七沢温泉、飯山温泉といった名湯を楽しめます。

年会のテーマは、「学校教育と地域力を考える」となりました。記念講演は、学校教育と地域で協力し実現できる多種多様な教育活動が、強靱かつ持続可能な地域社会の実現にどのような役割を果たし「地域力」に結び付けるか、講演をする予定です。

シンポジウムでは、医療の専門家および、国際的視野を持つ方から、教育の視点による地域力がどういったものかを、考えていきます。また、今回の年会もICTをはじめ教育関連企業と連携して、展示や体験スペースの設置や企業セミナーを予定しております。研究発表では、一般研究と課題研究に分かれ、2日間を横断的な構成で発表を予定しています。

今回の会場となる松蔭大学は、教育者吉田松陰の生き方に学ぼうとの思いから、「知行合一」の精神をもって、それぞれの学問を継承、研究、創造、発信するための総合的学力の育成を目標としています。その教育には、地域を学びの場とした活動から、地域の人々との社会的な関係の中で体験的に学ぶ教育も含まれています。学校教育と地域を背景とした先端的・創造的な研究や、教育と地域を繋ぐ実践研究を、教育情報学会の成果として、社会にフィードバックできるよう取り組んでまいります。

第34回年会実行委員長 松浦 広明

**開催日：2018年8月25日（土）・26日（日）**

**会場：松蔭大学 厚木森の里キャンパス**

<所在地> 〒243-0124 神奈川県厚木市森の里若宮9の1

<大学 HP> <http://www.shoin-u.ac.jp/>

**事務局：日本教育情報学会 第34回年会実行委員会**

<所在地> 〒243-0124 神奈川県厚木市森の里若宮9の1

松蔭大学 立野研究室

<E-mail> [jsei-nenkai@jsei.jp](mailto:jsei-nenkai@jsei.jp)

**年会 HP： <http://www.shoin-u.net/jsei2018/>**

**後援：神奈川県教育委員会（予定）、厚木市教育委員会（予定）**

**日程**

| <b>&lt;1日目&gt; 8月25日(土)</b> |             | <b>&lt;2日目&gt; 8月26日(日)</b> |                  |
|-----------------------------|-------------|-----------------------------|------------------|
| 9:00～                       | 受付          | 9:00～                       | 受付               |
| 10:00～12:00                 | 課題研究発表      | 10:00～12:00                 | 課題研究発表<br>一般研究発表 |
| 12:00～13:00                 | 昼食・理事会・評議員会 | 12:00～13:30                 | 昼食               |
| 13:15～14:00                 | 総会・学会賞表彰式   | 13:30～15:30                 | 一般研究発表           |
| 14:10～14:50                 | 研究会活動報告     |                             |                  |
| 15:00～16:00                 | 記念講演        |                             |                  |
| 16:15～17:45                 | シンポジウム      | 16:00～17:00                 | 合同研究会            |
| 18:30～                      | 懇親会         |                             |                  |

※変更が生じる場合がありますので、最終版のプログラムにてご確認ください。

## 【1】 記念講演

# 学校教育と地域力を考える ー学びと実践のフィールドとしての地域ー

講演者：松浦 広明（松蔭大学副学長）

### 【概要】

教育現場にとって、地域はアクティブラーニングや課題解決型学習を行うための恰好の学習環境であり、教室を超えた学習機会の拡大を可能にします。また、環境、貧困、教育、健康、難民と言った持続可能な開発目標（SDGs）の下で取り込まれている地球規模の問題に対しても、“Think globally, Act locally”と言われるように地域にフォーカスして行動する事が、世界レベルの目標を達成するのに不可欠とされています。現在、地球が直面している多くの問題には国境はありません。誰もが世界や社会を良い方向に変えていく大きなチャンスをもっています。地域を学びの場とした活動から、地域への愛着や貢献だけでなく、地域での活動を地球規模の問題解決と結び付ける事のできる人材は、今後必要不可欠となるでしょう。学校と地域が目標を共有する事で実現できる多種多様な教育活動が、強靱かつ持続可能な地域社会の実現、そして地球規模の問題解決にどのような役割を果たす事ができるのかという視点で、「地域力」を考えていきます。

## 【2】 シンポジウム

### テーマ：学校教育と地域力を考える

<登壇者>

コーディネータ：鷺尾 裕子（松蔭大学 准教授）

垣内 史堂（松蔭大学看護学科長）  
地域医療の視点からの地域力  
袁 廣偉（曲阜師範大学）  
国際協力の視点からの地域力

上記の方々に加えて、市町村の視点からの地域力と国政の視点からの地域力について、各1名ずつ専門家を予定しており、議論を進めていただきたいと思います。

## 【3】 課題研究

### ① 各研究会による課題研究のテーマ

テーマ： 深い学びと教育実践（教育資料研究会）

【コーディネータ】加藤 直樹（岐阜大学），齋藤 陽子（岐阜女子大学）

【要旨】

新学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」の重要性が示されている。その中の「深い学び」の実現に向け、どのような教育実践が必要であるのか、多くの事例を通して、皆様と議論していきたいと考えている。そもそも「深い学び」とはどのようなものであるのか、子供たちがどのような状態となると、「深い学び」が実現できたと言えるのか、また、そのためにはどのような教育方法があるのか、などを皆様から教育実践をご発表いただき、考えていきたいと思う。この「深い学び」のための教育方法は、発達段階により様々なものである。さらには、その学びの場も学校教育はもちろんのこと、地域・家庭の場もある。そのようなことから、幼・小・中・高等学校、そして大学や生涯学習などにおけるそれぞれの段階・場での「深い学び」の状態とその教育方法を考える必要があるだろう。

そのために、様々な校種の皆様からの多くのご発表をお待ちいたしております。

テーマ： 教育・研究のグローバル化をいかに活性化するか？（国際交流研究会）

【コーディネータ】小川 勤（山口大学），陳 那森（関西国際大学）

【要旨】

各大学では教育のグローバル化の進展を目指して様々な教育プログラムが開発されて実施させている。しかし、実施して上でさまざまな課題が見えてきている。日本から海外の大学への留学、海外からの日本への留学、それぞれの課題について協議する。一方、研究のグローバル化に関しては、本研究会では昨年の7月に本学会による国際会議での英語による研究発表および12月27日・28日に中国山東省の日照市にある曲阜師範大学において本学会で初めて海外研究交流会を開催した。その成果と課題を踏めて、これからの国際研究交流の在り方について協議する。

※このテーマのセッションは8月26日（日）に実施予定です。

テーマ： 地域の歴史アーカイブ：いま記録しなければ消えていく地域の記憶（デジタルアーカイブ研究会）

【コーディネータ】井上 透（岐阜女子大学），皆川 雅章（札幌学院大学）

【要旨】

地域の歴史は、人物、建築物、交通、食、教育、伝統文化、自然などさまざまな観点から物語ることができる。デジタルアーカイブは貴重・希少な資料を保存・保

管するためだけにあるのではない。ここでは標記のテーマを掲げ、「いま記録しなければ消えていく地域の記憶」をデジタル化して遺すさまざまな取り組みを発表する場を設け、事例から学びあうことを通じて、地域に根差したデジタルアーカイブが発展していく1つのきっかけとしたい。

個人、自治体、企業、教育機関などからのさまざまな事例発表を歓迎いたします。

**テーマ： 情報の連携・活用研究（著作権等研究会）**

【コーディネータ】塩 雅之（常磐大学），横山 隆光（岐阜女子大学）

**【要旨】**

教育の情報化が本格的に教育現場で実現する中、デジタルアーカイブや各種ホームページが林立しているが、それらを横断検索等して有効な活用が充分できていない状況にある。政府の知的財産戦略本部の各政策会議でもこの問題を重視して、つなぎ役の必要性などが検討されている。その結果、国立国会図書館は、今年4月を目途にジャパンサーチ（仮称）を公表する予定になっている。

このような背景を踏まえ、学習教材が将来的にも活用できる諸条件、例えば著作権・肖像権プライバシー・慣習等の権利処理や位置情報をどのようにメタデータに反映することが適切であるのかなど現在と未来に教育情報が活用されるための研究・実践について発表をお待ちしています。

**テーマ： ICT を活用し、高度情報社会に相応しい人間力を養う（ICT 教育研究会）**

【コーディネータ】河野 敏行（岡山理科大学），反田 任（同志社中学・高等学校）

**【要旨】**

学ぶ側と教員の双方において、ICT を効果的に活用することで、豊かで力強い人間力を育成する事を目指す。そのために以下の内容を実践する。

1. 学校教育と地域を巻き込んだ学習環境を構築する。
2. 小学校から大学そして社会人に向けた教材開発を行う。
3. 学校だけではなく生涯教育などを支える教育サポートシステムを構築する。
4. ICT を活用し、プログラミング的思考力を養う教育のあり方を検討する。
5. プログラミング教育の具体的な内容と方法について検討し提案する。
6. ICT を効果的に活用し、創造的能力を育成する研修会を行う。
7. ICT の活用促進のための具体的な環境や教材を検討する。
8. 時間と空間を超えて研究や学習者とのコミュニケーションをサポートするネット会議システムの確立を図る。

**テーマ： 課題研究のテーマ：アクティブラーニング・ファシリテーター育成と大学 IR 情報の活用に関する研究（教職開発研究会）**

【コーディネータ】武田 正則（国立仙台高専），森 雅生（東京工業大学）

## 【要旨】

本研究会では、アクティブラーニングを推進するためのファシリテーターの育成と、大学 IR におけるオープンな情報サービスやデータの発展的活用に関する研究と、2つの研究課題を設定する。

まず、アクティブラーニングの指導法のひとつになるファシリテーションを取り上げる。具体的には、学生ファシリテーター養成研修を開催する。(教員の研修も含む)。その研修の実践テーマとして、地域の問題解決に取り組むことにより、学校教育と地域力を考える。

また、現在、高等教育機関は機関外の社会の多様なアクターとの連携協力が求められている。このため、高等教育機関による教育・研究・社会貢献活動について、機関の自己評価のみならず、他の同等な組織とのベンチマークが必要となってきた。高等教育機関における IT の利用が普及してきたことにより、そうした活動の記録が電子情報として詳細に残されるようになり、中にはオープンな形で利用可能なものも現れている。本研究会では、上記のような見地から、教育研究活動等の効率的なモニタリングを目的として、オープンな情報サービスやそこから利用できる様々なデータをどのように発展的に活用できるかを議論する。

## テーマ： 合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー（特別支援教育 AT 研究会）

【コーディネータ】金森 克浩（日本福祉大学）、大杉 成喜（皇學館大学）

### 【要旨】

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成 25 年法律第 65 号）の実施を受け、教育分野も大きな改革が行われてきた。都道府県教委レベルでも具体的な「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」の内容が通知され、新しい学習指導要領への移行とともに、インクルーシブな教育環境・指導の発展がはかられてきている。この「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」には障害に応じた ICT 機器等の活用（アシスティブ・テクノロジー）が重要で、その活用のさらなる発展・普及が期待される。

特別支援教育 AT 研究会では課題研究のテーマとして「合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー」を設定し、最新の技術と利用について議論する。

## ② 第 34 回年会に追加されたテーマ

第 34 回年会の課題研究では、各研究会によるテーマの他に以下のテーマによる課題研究セッションを設け、活発な議論の場を増やしたいと思います。新たに加わるテーマは以下の 3 つを予定しておりますので、奮ってご参加ください。

テーマ： 観光教育の拡がり地域力の可能性

【コーディネータ】古賀 学（松蔭大学）、永井 恵一（東洋大学）

【要旨】

地域力は、人と人がつながり、地域の課題を積極的に解決していく力である。その地域力の根源は、学生のような若者による多様な地域活動である。地域力を支える観光教育の一環として、地域を支える人材となりうる若者が関心を持ち、地域の問題に主体的・自律的に取り組む活動が重要である。観光教育において、地域はアクティブラーニングや課題解決型学習を行うための恰好の学習環境であり、教室を超えて、学生の学習機会を拡大する事が期待できる。さらに、学校教育や地域の実情に応じたより多くの幅広い視点から「地域力」を議論する必要がある。

また、地域活性化をもたらす重要な基盤的要素である教育の強化に向けた取組を重点的に推進していくべきと考える。そのため、地域資源の発掘、再生、創造に向けた視点からの施策についても、議論を進めていくべきと考える。

テーマでは、観光教育や地域連携を中心とした研究・事例を募集します。地域力をキーワードに取り組みされている教育事例、連携事例について議論できる内容を幅広く議論したいと考えています。

テーマ： 看護教育における教育方法と評価

【コーディネータ】風岡 たま代（松蔭大学）、長嶋 祐子（駒沢女子大学）

【要旨】

看護教育には、国家試験を受ける前の基礎教育と、就職後の卒後教育がある。いずれにおいても、「人を理解して援助する」教育と同時に、社会の変化・要請に対応しながら、急速な医療機器や技術の進歩に伴ってさまざまな分野で活用される ICT にも対応できる教育を推進していく必要がある。とりわけ 2013 年の厚生労働省の「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン」によって電子カルテシステムの普及が目標とされて以降、ICT 教育は基礎教育でも必須科目となった。また、教育方法としても、e-learning が普及し、コンピューターで制御されたモデル人形を用いたシミュレーション教育も汎用されてきている。そうした中で、基礎および臨床において看護教育に携わる者には、看護実践能力の向上や医療安全のために、ICT を活用した教育の工夫と実践、さらにはその評価ができる教育力が求められている。

そこで、看護の基礎教育・卒後教育で、現在行われている教育内容、教育方法、教育評価について議論できる研究や教育実践の発表をお待ちしております。

テーマ： 資質・能力の育成に向けた幼児教育内容の改善・充実

【コーディネータ】山下 文一（松蔭大学）、林 泰子（芦屋学園短期大学）

【要旨】

平成 29 年 3 月に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が告示され、義務教育や高等学校教育を終える段階で身に付けておくべき力を踏まえて、幼児教育から高等学校までを通した資質・能力が示された。また、幼児教育においても、環境を通して行う教育を基本として「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一体的に育てていくことが示された。さらに、小学校教育との円滑接続のために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確にされ、学びの連携・接続の重要性が示された。

今後これらのことの実現にむけて、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何よりも重要であり、幼児の自発的な遊びを生み出すために必要な環境をどのように構成していくかということがこれまで以上に求められている。資質・能力の育成のための教育内容の改善・充実に向けた実践等の発表を通して、今後における幼児の自発的な遊びを生み出すために必要な環境等の在り方について考える。

## 【4】 研究発表申込募集

### ① 研究発表申込み資格

第 1 発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（[jsei@gifu-u.ac.jp](mailto:jsei@gifu-u.ac.jp)）に申込み、入会登録手続きを行ってください。

会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある 4 ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。

※研究発表の申し込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

### ② 発表内容について

「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。

一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください。

ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

第 34 回年会では、新たに学生セッションを予定しています。詳しくは「④学生セッションと英語による発表」をご覧ください。

＜一般研究発表セッション一覧＞ ※第 2 希望まで選択

- |       |       |            |          |
|-------|-------|------------|----------|
| ・情報教育 | ・教育方法 | ・学習評価      | ・教育実践    |
| ・教科教育 | ・教材開発 | ・デジタルアーカイブ | ・学生セッション |

申込時に選択するキーワードは下記の通りです。

教育情報管理, 文献資料, 教材, 電子教科書, デジタル・コンテンツ, 教材開発, メタデータ, 情報カテゴリー, シソーラス, デジタル・アーカイブ, 知的財産権, プライバシー, カリキュラム, 教材研究, 学習評価, 授業分析, 教育システム, 交流学习, 高大連携, 生涯学習, 教師教育, 情報教育, 教科教育, 情報処理教育, e ラーニング, 教育情報システム, 学習ソフトウェア開発, 学習情報管理システム, データベース, 情報検索, インターネット, 遠隔教育, 遠隔教育システム, ネットワーク,



ISSN 0912-6724

### ③ 発表申込み方法に関するお願い

#### (1) 発表申込み方法

- ・第34回年会ホームページ〈<http://www.shoin-u.net/jsei2018/>〉の「発表申込みフォーム」から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ホームページ以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。
- ・申込み後の申込内容変更については、メール〈[jsei-nenkai@jsei.jp](mailto:jsei-nenkai@jsei.jp)〉にご連絡をお願いします。

#### (2) 発表申込み期間

- ・3月1日（木）～4月30日（月）

#### (3) 申込み完了メール

- ・Web上の「発表申込みフォーム」からのお申込みが完了すると、お申込み時のEメールアドレスへ『発表申込み完了メール』が送信されます。
- ※申込み完了後は『発表申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

#### (4) 発表採否通知期間

- ・5月14日（月）頃（発表のお申込が完了した方には、発表の採否をメールで連絡します。）

#### (5) 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（word）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は **4枚**、一般研究は **2枚**とします。

#### (6) 原稿提出期間

- ・6月1日（金）～7月13日（金）

#### (7) 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

#### (8) 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。

- ・発表等の時間は、発表 10 分、質疑 4 分、移動 1 分です。
- ・一般発表は会員の方のみ発表可能です。

#### (9) 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・一般研究については、希望するセッションを選んでください。
- ・上記の一般研究発表のキーワードの中から 2～5 語以内を選んでください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して、問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

#### (10) 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従い作成していただき、PDF 形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

#### (11) 参加フォーム

- ・参加申し込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。

#### (12) 発表会場

- ・会場には、プロジェクタが準備されています。パソコンは各自で持参してください。
- ・プロジェクタには、HDMI 端子はございません。VGA 端子が利用できるパソコンをご準備ください。
- ・会場では、Wi-Fi 等のインターネット環境の貸し出しはございません。
- ・会場までは、直通バスを準備していますので、直通バスをご利用ください。また、神奈川中央交通の路線バスもご利用いただけます。

##### 【小田急線・本厚木駅下車】

厚木バスセンター9番のりばから約 25 分 森の里行 通信研究所前下車（大学前）  
厚木ステーションキャンパス発直通バス約 20 分

##### 【小田急線・愛甲石田駅下車】

バスターミナル4番のりばから約 15 分 松蔭大学行 大学内バス停下車  
バスターミナル4番のりばから約 15 分 森の里行 通信研究所前下車（大学前）

- ・直通バスの乗車位置は、年会用 HP にて掲載します。

#### ④ 学生セッションと英語による発表

今年は、一般研究の中に学生によるセッションと英語による発表を募集する予定です。学生セッション希望の学生は参加費無料とします。

学生セッションは、若い研究者が有意義な研究発表や討論を体験する機会を提供することを目的としており、英語による発表は日本教育情報学会における研究

活動の国際化を推進する手助けとなる試みでもあります。こういった趣旨をご理解いただき、積極的に応募いただきたく思います。なお、英語による発表は、発表件数次第では独立したセッションで行い、原稿及び質疑応答は英語とします。

## 【6】 年会の参加方法

### ① 参加申込

次号ニューズレターで、申込み方法等詳細についてご案内いたします。

### ② 参加費用

参加費，年会論文集代，懇親会費は下記のとおりです。

なお，支払方法につきましては，次号のニューズレターでご案内いたします。

#### ○参加費

- ・ 会員<事前申込> 参加費 3,000 円
- ・ 会員<当日申込> 参加費 4,000 円
- ・ 非会員 参加費 4,000 円

※後援教職員・学生セッション希望の学生・協賛企業は無料

○年会論文集代 3,500 円

○懇親会費 5,000 円

## 【7】 年会開催までのスケジュール

- 発表申込期間 2018年3月 1日(木)～4月30日(月)
- 発表決定通知 2018年5月14日頃
- 原稿提出期間 2018年6月 1日(金)～7月13日(金)
- 参加申込期間 2018年6月 1日(金)～8月 7日(火)
- 論文郵送申込期間 2018年6月 1日(金)～8月 7日(火)

## 【8】 広告掲載募集

年会論文集用の広告募集いたします。広告を掲載頂いた企業の方には，当日会場内ブースにて，無料で製品紹介及び展示等をしていただくことが可能です。また，今回の年会から Web サイトバナー広告の追加やランチョンセミナーの開催も予定しております。セミナー枠には限りがございます。申し込み方法は後日年会 HP にて掲載いたします。企業の PR や情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

広告掲載は，協賛 A と協賛 B の 2 種類となっております。詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知らせの関連企業にお声掛け頂き，多くの企業の方にご参加いただけるよう，ご紹介のほどよろしく願いいたします。

広告掲載申込方法などは HP にて告知します。その他に，ご質問がありましたら，年会事務局 (jsei-nenkai@jsei.jp) までお寄せください。

|   |                   |                             |
|---|-------------------|-----------------------------|
| <b>協賛 A (料金 : ¥40,000)</b>  |                   |                             |
| ① 展示 (1 ブース)<br>② 広告 1 (論文集掲載)<br>③ 広告 2 (Web サイトバナー)<br>④ 広告 3 (フライヤー同封) | <b>論文集掲載広告</b>    |                             |
|   | 色                 | 1 色 (モノクロ)                  |
|   | 頁 (寸法)            | 1/1 頁 (天地 240mm × 左右 160mm) |
|   | 形式                | Word, JPEG                  |
|   | <b>Web サイトバナー</b> |                             |
|   | 寸法                | 180 ピクセル × 70 ピクセル (横 × 縦)  |
| 形式  | JPEG, PNG         |                             |

|                                |                |                             |
|--------------------------------|----------------|-----------------------------|
| <b>協賛 B (料金 : ¥30,000)</b>     |                |                             |
| ① 展示 (1 ブース)<br>② 広告 1 (論文集掲載) | <b>論文集掲載広告</b> |                             |
|                                | 色              | 1 色 (モノクロ)                  |
|                                | 頁 (寸法)         | 1/1 頁 (天地 240mm × 左右 160mm) |
|                                | 形式             | Word, JPEG                  |

=====  
 事務局移転のお知らせ  
 平成 30 年 4 月 1 日より、運営本部事務局が下記の場所に移転いたします。  
 〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22  
 芦屋大学技術研究棟若杉研究室内  
 日本教育情報学会運営本部事務局  
 TEL: 090-1026-1413  
 E-mail: [jsei@ashiya-u.ac.jp](mailto:jsei@ashiya-u.ac.jp)      HP: <http://jsei.jp/>  
 =====

### 日本教育情報学会 運営本部事務局

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC 館内  
 TEL: 080-9730-1311      FAX: 058-293-3384  
 E-mail: [jsei@gifu-u.ac.jp](mailto:jsei@gifu-u.ac.jp)      HP: <http://jsei.jp/>